

ライオンズクラブほうき 400 本寄贈

12月、小林市ライオンズクラブから市内の全小中学校に竹ほうき合計400本が寄贈されました。19日、東方中学校で代表して受け取った上野璃子さんは「このほうきで地域をきれいにしていきます」とお礼を述べました。



農年受給協が北きりへ歓迎旗を贈呈

12月19日、市農業者年受給協議会（児玉厚夫会長）が、北きりしま田舎物語推進協議会へ、のほりを贈りました。受け取った清水洋一会長は「各イベントや受入れ拡大に活用していきたい」とお礼を述べました。



高校体育振興へ区長会が寄付

12月20日、市区長会が高校生の体育振興に役立ててもらおうと、市内の高校へ寄付を行いました。小峰實義会長は「加入世帯の協力によるもの。全国レベルでの活躍や強化育成を力強く応援したい」と話していました。



野尻中学生徒、歳末助け合い運動で募金

12月26日、野尻中の生徒が、市社会福祉協議会へ、生徒が集めた募金を寄付しました。代表して募金を贈った生徒会長の横井光太郎さんは「お菓子1つを我慢して募金にまわす気持ちを持ちたい」とあいさつしました。



新春の練習初めに緑ヶ丘公園を清掃

1月6日、小林中央グラウンドゴルフ協会が緑ヶ丘公園内の清掃を行いました。会員70人が参加し、落ち葉拾いなどを実施。図師義一会長は「毎週練習に使わせてもらっている市への恩返し」と話していました。



須木地区で初の竹ハシラカシ 地域住民ら無病息災を祈る

1月12日、地域活性化交付金を活用し、須木地区で初めて竹ハシラカシが開催されました。地域住民ら約150人が参加し、組まれた竹にしめ縄や門松を装飾。点火すると大きな音とともに激しく燃え上がりました。その後、参加者は竹に刺した餅を残り火で焼いて食べ、無病息災を祈りました。



竹ハシラカシ実行委員長の中間傳さんは「初の試みが成功して嬉しく思う。継続させ伝統行事にしていきたい」と話していました

地域や外部の講師から学ぶ 野尻中でKSSVC事業

1月15日から17日、「黄金の3日間」と題し、野尻中学校で地域や各分野の専門家などによる授業が行われました。これは保護者、地域や団体などが連携し、小中学校を支援するKSSVC事業の一環。生徒たちは新聞社、アナウンサー、地域の団体などから、多くのことを学びました。



フリーアナウンサー坂井淳子さんによる講演。野尻中3年川良梨乃さんは「聴いた話を学校生活や今後に生かしたい」と話していました



市職員の説明を、真剣な表情で聴く児童ら。クイズでは「こすも〜」も登場し、楽しみながら税について学びました

税の仕組みや使われ方を勉強 市内3小学校で租税教室

1月、租税教室が西小林、三松、小林小で行われました。市役所税務課職員らがアニメやクイズで税の仕組みを解説。児童は、防災や教育、暮らしの中で税がどう使われているかを学びました。西小林小6年の木村早智佳さんは「何に使われているかを知り、大切さが分かった」と話しました。



提灯落としには、小林、須木、野尻地区から2部ずつ出場。消防団では、郷土を愛する消防団員、女性消防団員を募集しています

新年の火災ゼロや安全を願う 消防関係者集い消防出初式

1月12日、新春恒例の消防出初式が消防団訓練広場で行われました。西諸広域消防本部の職員や消防団員など440人が参加。式は、服装や規律を正す通常点検で幕開け。提灯落としとしては、団員たちが竹に吊るされた提灯に向かって一斉に放水すると、会場から歓声と拍手が送られました。

農家民泊の魅力フェイスブックで発信 北きりと小林秀峰高校が協定

12月26日、北きりしま田舎物語推進協議会と小林秀峰高校が、連携して地域の魅力を発信する協定を結びました。生徒が北きりの農家に民泊し、その体験をフェイスブックで発信。調印式で3年の岡原良奈さんは「肌で感じたことを県内外に積極的に発信していきたい」とあいさつしました。



小林秀峰高校では、インターネット上で情報共有ができるフェイスブックを活用した地域の情報発信に力を入れています

「心と心が交流する体験を」 講演で体験型観光の手法学ぶ

1月10日、体験型観光講演会が文化会館で開催されました。北きりしま田舎物語推進協議会が主催し、西諸の農業関係者ら170人が参加。講演には体験教育企画の藤澤安良代表が登壇し、全国の成功例や社会情勢を説明。「テーマを明確にした体験プログラムを打ち出すことが大事」と訴えました。



「体験型観光は、ありのままの田舎が武器になる。「おもてなし」ではなく、「もてなさない」の精神で取り組んでほしい」と藤澤代表